

朝日新聞 2010(平成22)年1月13日(水) 佐賀版 ぶらりミュージアム

113日 水曜日 11版 第2佐賀 佐賀 26

# ぶらり ミュージアム

県立博物館・美術館

正月らしいめでたい「熨斗文」は、蝶ネクタイか束ねたリボンのように粋でおしゃれです。江戸時代の人たちも同感らしく、背中いっぱい熨斗文をあしらった小袖や九州陶磁文化館所蔵の「色絵破魔弓熨斗文皿」など華やかなデザインの工芸品が残っています。

この鍋島更紗の敷物、見た目にはパッチワークみたいですが、幅60センチほどの広幅木綿を4枚縫い合わせたもの。一枚の布に仕立てた後、紋尽手・鶏頭手（花手）・花木手・唐花手・枕

## 粋でおしゃれ 木綿の逸品

鍋島更紗敷物・熨斗文

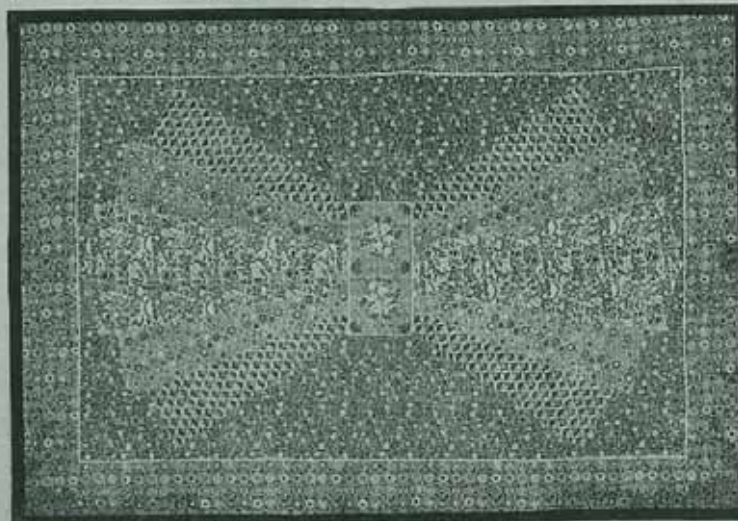
手など「鍋島更紗見本帖」に記された6種類の更紗模様を染め分けて、大きな熨斗文に作った鍋島更紗の逸品です。

所蔵の野中烏犀圖は、初代源兵衛が寛永3（1626）年に創業し、生業「烏犀圖」の製造販売を続けてきた老舗です。江戸時代の商家の趣を残す座敷「冷善楼」や店舗は現在、国登録有形文化財（建造物）。

野中家に伝わる由緒ある鍋島更紗を、ぜひご覧ください。2月14日まで県立美術館の「玉手箱Ⅴ 鍋島更紗をみる 式」で展示中。

（県立博物館・美術館）  
学芸員 宮原香苗

佐賀市城内1の15の23。電話0952・24・3947。  
バス停「博物館前」下車、徒歩1分。開館は午前9時半～午後6時。月曜（祝日なら翌日）休館。



明治時代／19世紀／木綿地に染め分け／縦151・4センチ、横216・5センチ／野中家所蔵